

2014 年 7 月 3 日

ミクロネシアと日本：過去・現在・未来

講演者：Kind KANEMOTO KANTO

（ミクロネシア連邦チューク州コミュニティカレッジ学長）

報告者：Eun Ja LEE

（関西学院大学国際学部准教授）

2014 年 7 月 3 日 ミクロネシア連邦チューク州コミュニティカレッジ学長を招いて講演会が開かれた。

グアムやサイパンと言うと誰もが太平洋に浮かぶリゾート地でありその位置も思い浮かべることができるだろう。しかし、ミクロネシアと聞いてどれ位の人がその場所や人々の文化・歴史を想定できるだろうか？この未知の世界に興味が注がれたためなのか参加者は予想していたより多かった。

この未知の世界はその歴史を紐解くと日本と大変深い関係のある地域だということがわかる。実際講師の Kanto 氏も日本と関係のある家系と繋がっている。

講演はその個人史とも深く関係のある日本の統治時代からの歴史について語られ始められた。講演と質疑応答の要約は以下の通りである。

今日の招きと多くの方の参加に感謝いたします。私は日本語ができず一方皆さんは私のネイティブ言語を解せないで英語を借用してお話をさせていただきます。ミクロネシアはオセアニアの海洋部の地域分類名で三つのサブリージョン、キャロライン諸島、マリアナ諸島、マーシャル諸島、に分かれています。そして、その地域にある一国家としてミクロネシア連邦があります。国としてのミクロネシア連邦というのは 4 つの州からなっています。ヤップ、コンラエ、ポナペイ、そして私の住むチュークです。四つの州はそれぞれ火山島と珊瑚礁の小さな島々からなっており、その総数は 600 以上にのぼります。これらの島々に住む人々の言語や文化は州ごとにそれぞれ違います。

北マリアナスに含まれているグアムは地域 region としてはミクロネシアに属していますが、政治的にはアメリカ合衆国の領土、準州とされているため特殊な立場にあります。いずれにしろ、この地域に属する独立国家として成立しているのが、私が属するミクロネシア連邦以外にパラオ共和国、北マリアナ諸島自治連邦区（Commonwealth of the Northern Mariana Islands）、マーシャル諸島共和国です。これらの地域すべては過去日本の統治下にありました。

日本の統治は 1914 年に第一次戦争勃発後日本海軍の上陸により始まり第二次世界大戦の終焉まで続きました。第一次世界大戦の終焉後は国際連盟管理下のもと日本が委任統治という形で支配しました。第二次世界大戦後は国際連合（UN）の安全保障委員会での決定によりアメリカ合衆国が信託統治という名のもとでこの地域を支配しました。そして一つの region だったこの地域は 4 つ国家として独立しました。私が属する国家もその一つで国名は先ほど申しましたミクロネシア連邦 Federal State of Micronesia、通称略して FSM といい、政治形態として 1978 年に独立しました。しかし現在もそれぞれの国家がアメリカとの関係において自由盟約あるいはコモンウェルズという地位協定関係にあり実質アメリカの支配が続いています。この地位協定は軍事・外交権をアメリカが有しその代価として国家予算の大部分がアメリカから援助されています。教育もその一つで言語は英語、教材もアメリカから送られてき

ます。もちろん現地の我々の言語も教えられバイリンガルの教材も使われています。

主要産業もなく経済的に自立が難しく、アメリカに依存しているわけですが、アメリカは信託統治時代にこの「依存」というものを計画的に遂行したと言えるかも知れません。たとえば、その当時アメリカは学校にあればお米を与えるというようなプログラムなどを行ったのですが、貧しい島民たちは教育のためというより、食べ物をもらうために学校に行き始めたのですが、ある日突然、その配給は終わりました。その時点では子供たちは米の味に慣れており、もともとの主食であったタロイモより好むようになってしまいました。結果としてタロイモは買わなくても家で栽培でしていますが、米は買わなければなりません。でも買うお金はない。このようにアメリカは信託統治の時代から私たちに経済的自立に向けての政策ではなく、むしろ、「依存」させる政策をとってきました。そういう意味で現在も独立しているとはいえません。

日本との関係は昔も今も密接なものがあります。1988年にポナペに日本大使館が開設されています。また東京に私たち FSM の大使館も設置されています。

数年前に皆さんご存知の森元首相がミクロネシアに来られた時お会いする機会がありましたが、彼の父親は太平洋戦争が起こった時の海軍の隊長でトラック島に赴任していました。そのような関係からもミクロネシアに数度来ています。また学生交流のための奨学金制度を作り、日本からそしてマイクネシアから学生たちが来て交流しています。彼だけではなく日本との深い関係の象徴としてミクロネシア連邦という一応独立国家になった時の初代大統領は Toshio Nakayama で現在の大統領も日系の Mori です。この人は先ほど、森元首相の遠縁でもなんでもなく、ミクロネシアに最初に入ってきた日本人冒険家でもありビジネスマンであった森小弁の子孫の一人です。森一族の系列は今も政治的、経済的にと社会の至るところで影響力を持つ人々です。森一族以外にも日本との関係を象徴するような人がいます。東京ジャイアンツのピッチャーであった野球選手の相沢進もビジネスやコミュニティで影響を及ぼした人でその一族も FSM 社会で影響力のある一族です。たとえば、先ほど言いました。東京にある FSM の大使は相沢一族の末裔です。

このように日本の統治がもたらしたレガシーは現在の FSM 社会の至るところに散見することができます。それらは肯定的な側面と否定的な側面があります。両方の側面を少しお話ししたいと思います。

まず、否定的な事柄から。魚の漁獲の方法にダイナマイト漁 (dynamite fishing) というものがありますが、これは日本人が行っていたものを現在もその方法をまねて行われています。この方法は短時間に多くの魚が獲れるということで日本の統治時代から行われていたものです。確かにこの方法だと一度にたくさんの魚がとれます。しかし、獲りたい魚だけを狙いうちするということは不可能で、その結果、漁業目的とは違う他の種類の魚も同時に死んでしまいます。そして、その結果周辺の海の生態系が破壊されるということが継続しています。

肯定的なことは先ほどもお話しましたが、日本の要人たちや日本政府が援助を出して、コミュニティセンターを建てたり、奨学金制度で若者の交流が始まったりしていることです。これらの日本側からの積極的な働きはやはり、過去の関係があったからだと思います。また肯定的なことか否定的なことかよくわかりませんが、日本語がたくさん我々の現地語の中で混ざって使用されています。たとえば、今回私が日本に来て先生という単語が日本語であるということがわかりました。私たちは sense と綴って、日本語と同じように教師の意味で使っています。

現在の FSM は過去の統治国であった日本とアメリカのレガシーと影響を受けながら社会発展しているところですが、スペイン、ドイツ時代の統治のレガシーは宗教以外ほとんど残っていません。しかし、その影響は大きく、ほぼ9割の人々がプロテスタントかカソリックのクリスチャンです。

政治的にはアメリカの影響、経済的には日本や他のアジアの国々たとえば、中国やシンガポールなど FSN の将来を考えると難しい課題が山積みです。みなさんの関心を傾けてくださることをお願いしま

す。ありがとうございました。

質疑応答

Q. アメリカの援助なしで自立のためにはどのようなことが考えられますか？

A. 現実的には難しいことだけれども、自分たちが持っているリソースを如何に使うのかということを学び模索していかなければと思います。日本などに漁業権を売っているのですが、そのために必要以上に海のリソースがなくなり、漁業権で得たお金もなくなるというような悪循環にならないためにも海の資源を有効に使う道を探していくことだと思います。

Q. 教育の現場での言語は何ですか？

A. 小学校では英語で教えるのは難しいのですが、中高では英語で教えるようにしています。そして、大学では英語で教えることが義務となっています。

Q. 経済的に自立していないということで学生たちや若者たちが職業を得るのはむずかしいと思うのですが。

A. その通りで、それで、多くの若者がアメリカに出稼ぎに行きます。先ほど言いました。Compact Free Association という地位協定の中での同意事項の一つにミクロネシアンはグアム、ハワイはもちろんアメリカ本土へはビザ無しで行くことができます。そしてそこで働くことも合法です。ですから、多くの若者が島を離れアメリカで仕事を探すという状況が加速されています。

Q. 日本人の社会的地位とその社会での受け入れられ方はどうでしょうか？アメリカと日本の影響についてどちらの方をより好まれているのでしょうか？

A. 古くからビジネスをしていたりして日本人は相対的に尊敬され受け入れられていると思いますが、日本人を嫌う人もいます。それは戦争の記憶だと思います。アメリカとの比較ですが、それは世代によってかなり違うし個人によっても違います。

Q. 日本の統治時代における同化教育つまり日本人化についてどのようなことがありましたか？

A. 日本政府が建てた公学校で日本語教育が行われたいたし、日本に向かったの天皇遙拝という儀式も強要されていました。

Q. 日本軍が入って来た時に住民たちの抵抗はありましたか？

A. 第一次世界大戦の時は直接の戦闘地域でなかったことや戦後民政になったためあまりなかったのですが、第二次世界大戦の時はチューク（トラック）は海軍本部があり、戦闘が激しくなるに連れて住民たちの食糧が奪われたり、被害も大きく抵抗もかなりありました。

Q. ミクロネシアではどのような貨幣が使われ、銀行はどのようなものがありますか？

A. 貨幣は US ドルで銀行はミクロネシア連邦のものとグアム銀行があります。

Q. 現地での言語そして主な食べ物は何ですか？

A. 教育現場では英語なので、若い世代は徐々にチューク語ができなくなっているのですが、チューク語も教えるようになり、特にチューク語は文字がないのでアルファベットで書き写せる教育もしています。食べ物は魚、タロイモ、お米、刺身などですが、悪い食習慣としてアメリカの統治時代の悪弊でタ

ーキー（七面鳥）の尻尾を安いこともあって多くの人が好んで食べます。脂肪ばかりなので、その結果高血圧や糖尿の人が多くいます。若い人はスパムなど缶詰類も好きですが、インスタントラーメンもとても好んで食べます。

Q. 交換留学などがありますか？

A. 先ほど話したように、日本政府の奨学金制度で学生一人が上智大学に行きました。また上智大学からも学生がきました。

Q. 魚を輸出していますか？

A. 魚の輸出は主にグアムだけで、むしろ、漁業権のリースを日本や中国そしてシンガポールなどとしています。漁業権のリースはとても非合理的な内容です。というのはリース料は年間いくらか決められた金額ですが、獲っていく魚の量は制限されていません。結果としてどういうことが起こるかといえば、私たちの周辺海域の自然資源が私たちに還元されないまま失われていくということです。中国やシンガポールの場合は漁ではなく私たちの海を借りてそこで自分たちの好みの魚を養殖するために海を借りるためにリース料を払っています。これもまた悲しいことです。というのは私たちの嗜好の魚は育てられないばかりでなく、外来種が入ってくることによって元来そこに生息している魚はなくなってしまう可能性が高くなっているからです。

生態系の変化だけではなく、海の環境を悪くしている一つに第二次世界大戦時に沈没した日本の船がチュークラグーンに 100 隻以上もあります。その場所は今世界から来るダイバーの人気スポットになっていますが、この船からでる錆や公害物質が、海の水質を大変悪くしています。